

## 断末魔の朝日新聞と国会で遊んでいる野党議員

### SLAPP 訴訟の疑い

SLAPP 訴訟とは、Strategic Lawsuit Against Public Participation の略で、恫喝訴訟と訳す。社会的強者が弱者の言論を封殺するために、訴訟を起こすことをいう。

今回の話でいえば、公称 600 万部の朝日新聞が、わずか 10 万部売れたかどうかの飛鳥出版と、一部ではともかく、一般的にはそれほど著名でもない文藝評論家である著者の「徹底検証『森友加計事件』朝日新聞による戦後最大級の報道犯罪」に対し、5 千万円の損害賠償と謝罪を要求した。

事実に反し、名誉・信用を毀損する主な箇所として 16 点を挙げ、〈本書面受領後 2 週間以内に、書面にて真摯にお答え下さい。〉と要求した。……よくまあ、そんな恥知らずなことを主張するなあ。今までに、誤報や虚報・捏造で、たとえば無農薬の米を生産していた人の名誉を棄損してきたことはなかったか？ 珊瑚もそやろが！ 福島第一原発の吉田所長に対する誹謗・捏造もそうではないのか！ そういうのを世間では「恥知らず」と呼んで、日本人は蔑んできたのだ。

小川氏側は、1 つ 1 つの「事実について争うならば、公開論争に応じる用意があり、また事実の誤りがあれば、次回重版分から訂正に応じます。」

「著者個人の言論や表現を委縮させかねない申し入れ書ではなく、良質の言論で対抗することで論争を深めるよう望んでやみません」

朝日は、〈回答の内容は承服できません。今後の対応について、弊社で検討致します〉と、5 千万円の損害賠償を求め、東京地裁に提訴した。さあ、東京地裁が相手にするかどうか。朝日側に立てば、国民から馬鹿にされるのは目に見えている。(学はあってもバカはバカ)

朝日側は、「当社に取材なく、根拠もなく、虚報、捏造、報道犯罪と決めつけているが、さらに著書の事実に反した誹謗・中傷による名誉棄損の程度はあまりにひどく、言論の自由の限度を超えている、云々」……ここで嗤ってしまった。もし、たとえば安倍首相が、朝日新聞に同じような趣旨のことを言ったら、まったく同じ文面になるだろうな。つまりはブーメランである。よくまあ、他人事のように書けるなあ。

SLAPP 訴訟は、櫻井よし子さんが、その疑いありと言っているのだが、普通に読めばそうなるだろうなあ。なにせ、天下の朝日新聞なのだから。その気になったら、飛鳥出版など、ひとひねりだろう。……飛鳥出版は、「言論」で向かって行っているのだ。なぜ、言論界の重鎮である朝日新聞ともあろうものが、「言論」で反論しないで、「訴訟」にもっていったのか。

いや、いかになんでも安倍総理には取材しているだろう、と思いたいが、時々

余計なことを言って痛烈な皮肉で返されている。

週刊文春でも、「安倍夫妻の罪と罰」などと大きな見出しで、不倫ばかり追いかけていると目までが曇ってきて、スカタンな見方しかできなくなる。おまえらは、どれほどの意志があって取材しているのか。「文藝春秋」も、社長が代わってから売り上げ部数が激減しているという。当然です。

モリカケ問題で、1年以上野党と新聞は遊んでいたのだが、安倍さんは、「朝日新聞は、愛媛県の加戸知事の証言を掲載しましたか？」しどろもどろになっていや書いている、などと言ったらしいが、記者懇談会の席上だから他社の記者も大勢いる。失笑の連続だったらしい。このような嘘や偏った報道は数えきれないのではないか。

ところで SLAPP 訴訟については、朝日も堂々の意見を述べている。

〈言論封じ「スラップ訴訟」

2016年3月7日

批判的な市民に恫喝、嫌がらせ〉

と題する全5段の記事を掲載し、スラップ訴訟の被告側に取材し、〈精神的、肉体的にもものすごい負担だった〉 〈こうした訴訟を許さない社会になれば、繰り返される〉

そのまま自分たちのしていることを書いているようなものだが、この意見に従えば、朝日新聞が存在する限り、まともな社会は戻らない。

さらに専修大学の内藤光博教授の〈(スラップ訴訟は)特定の(人の)発言を封じるだけでなく、将来の他の人の発言にも委縮効果をもたらす。言論の自由を侵害する大きな問題で、法的規制も検討すべきだ〉

内藤先生にお尋ねしたい、今回の場合は、いったいどちらでしょうか？

朝日新聞は、モリカケ問題について、〈安倍首相が関与したとは報じていない。安倍首相が関与していないことを知っていたこともない。「安倍叩き」を目的として報道したこともない。疑惑を捜索したこともない〉

腰が抜けるほどの驚きである。そんなウソを誰が信じるのか。2017年2月から朝日は600回以上にもわたって森友・加計問題に関する記事を掲載し、これらの問題について安倍総理、政府には説明責任がある、と繰り返し報じてきた。

この主張は、逆に朝日新聞が一貫して、内容がないために、印象操作報道を行

っていたと白状しているようなものではないか！

「報道しない自由」を行使し、その証言をほとんど取り上げなかった愛媛県知事の加戸守行氏の語ったことについても〈「これらの当事者」の発言を幅広く報じていたものである〉……書いていて赤面しないか？

門田隆将氏が、朝日が「吉田調書」を改竄していることを発表したときにも、法的措置を匂わせている。

小川榮太郎氏の場合、安倍総理が、「哀れですね。朝日らしい惨めな言い訳だ。予想通りでした」

朝日新聞による報道するに足る品質に達していない「嘘の報道」→国会の野党議員が「事実」として追及→テレビが「事実として報道」コメンテーターと称する連中が提灯持ち→国民の一部が「嘘の報道」を「事実」と信じ込む→衆愚政治  
という図式が出来上がる。

高山正之氏の月刊「正論」での〈安倍を呪詛できると信じる（朝日の）姿〉に対しては、〈弊社が安倍晋三首相を呪詛したことはなく、呪詛できると信じたことがない〉……つまりは表面にでてきた言葉、片言隻句に対してのみ反応し、その内容を吟味することもなく、相手の言に単にオウム返し、あるいは条件反射的な反論をするのみである。すなわち、印象操作報道しかしていないことである。……少し考えたらわかるやろ、高山氏が、本当に「呪詛できる」などと思うわけがない。

その背景には、極端な部数減（1分半から2分で1部ずつ減少していく）と、ネットに動画も含めてすべてが明白に語られていることにより、危機感とともに焦りが現れていることを証明している。ネットのみを見る人には、朝日の欺瞞性が筒抜けなのである。

小川榮太郎氏も詳細に朝日の誤謬を指摘している。

現職総理に、国会で「品質に達していない」「嘘の報道」とまでこき下ろされ、反論記事を掲載したら「哀れ！」と酷評され、それに対して反撃さえできない。

安倍総理の件については、三流、五流の週刊誌やイエロージャーナリズムと同じレベルの出来事ばかりを、鵜の目鷹の目でさがすというより、嗅ぎまわっているとしか見えない。

朝日の凋落の原因も指摘されている。

朝日新聞が、その旗頭となってきた「戦後イデオロギー」の全面的な破綻の中で、自分たちが守り、立て籠もり、戦うべき正義を失ったことによる精神的な自

殺なのではないか。戦後イデオロギーとは、マルクス主義と GHQ の洗脳である。

安倍さんは、「戦後レジーム（体制）からの脱却」と最初に語ったが、つまりは、思想的には朝日新聞、毎日新聞、岩波書店、日教組の否定である。

高山氏は、「誤報して逆上」は昔からだ。

そして、これまでの誤報（捏造でもいいが）の代表例を挙げている。

伊藤 律会見（1952 年 9 月）

教科書誤報（1982 年 6 月）                      ご注進新聞と呼ばれた

旧日本軍毒ガス写真（1984 年 10 月）

K Y サンゴ（1984 年 4 月）

N H K 番組改変（2005 年 1 月）    安倍、中川氏がごり押ししたという。時系列がむちゃくちゃだった。

亀井静香×田中康夫会談（2005 年 8 月）

北朝鮮礼賛記事

ソ連礼賛記事

林彪失脚報道

本多勝一「中国の旅」

レイテ島民の大きなタンコブ。60 年前の握り拳大のこぶが日本兵に殴られたあとだ。今頃まで残っているはずがない。

中国戦線で人肉を食べたという与太話。

（できれば、これにパプア・ニューギニアの話や東チモールあるいはインドネシアでの話も載せてほしいところだが。）

高山氏の分析では、サイコパス（精神病質者）は先天性のものだが、ソシオパス（反社会性パーソナリティ障害）は後天性のものである。臨床心理学者セス・マイヤーズによると、「極度のナルシストで、自分は特別だという意識が強い者がかかりやすく、「自分と同じ考えのグループにのみ共感や忠誠心を持つ。」そして、「善悪の判断は、自分の属するグループの規範に従う」特性があるという。……まるっきり朝日の特徴そのものです。

2012 年 12 月、安倍さんが復権したとき、日本記者クラブで記者会見をした。その時、朝日の星浩が質問をした。「慰安婦問題はどうなるんですか」安倍が、「星さん、あなたの朝日新聞が、吉田清治というペテン師の話を広めたためじゃないですか」……つまり朝日のフェイクニュースだったという。30 年以上かけての嘘だから、星は沈黙せざるを得ない。これでは星を新聞で

は使えないと思ったか、TBSのコメンテーターに異動させた。すると、星は、安倍一強が悪いから官僚のサボタージュが起こる、などと分かったようなことを言う。注意してさし上げるが、安倍独裁ではない。では、今、安倍さんの代わりになる政治家がいるのか？

2015年安倍さんの「戦後70年談話」で、「日本が悪かった」と言わなかった(WGIP; GHQの日本の戦争犯罪擦り込み作戦の否定)。朝日はとりあえず慰安婦問題を謝罪した格好をつけて(実際には謝罪などしていないが)、さあこれから安倍叩きだというときに、池上彰のコラムを掲載しない、などと言い、福島原発の吉田調書問題での虚報(菅直人と囚った捏造と言ってもいい)を門田隆将氏らに否定され、躓いてしまった。社長のクビを差し出し、さあこれから。いろいろ画策するのだが、安倍総理はビクともしない。おかしいなあ。

平和安全法制、テロ等準備罪でも追及するけれども、以前だったら倒閣できたものが、一向に安倍にはこたえない。……余談になるが、これらの法律をつくったあと、とんでもない方向で効果がでてきた。捕鯨を目の敵にしてきたシーシェパードが、これからは、日本の捕鯨船の邪魔はしない、と言い出した。これは、世界的な条約に基づくもので、下手に日本の捕鯨を邪魔すると、世界中から袋叩きになる可能性がでてきたからである。

おかしい、こんなはずではなかった。そこへ降って湧いたようにモリカケ問題である。喜び勇んで張り切ったが1年かかっても、何も出てこない。当然のことで、何も無いところからは、何もでてこない。子供でもわかる理屈である。

加計問題では、元朝日新聞記者の長谷川熙氏が「偽りの報道」を著しておられるが、まったくの言いがかり。日本獣医学会が、石破やその他の政治屋を通じて新しく獣医学部を作らせないように画策してきたもので、安倍のゴリ押しを証明しようとするほど、獣医学会の既得権益の保護や向上心のなさ、世界の獣医学の知識からの遅れが目立ってしまう。一度は、天下り問題で極悪人にしてしまった元文科省次官をつれてきて騒いでも、個人的な嗜好が変だから、思った方向に向かっていかない。これは、すでに元愛媛県知事の加戸守行氏の陳述を書いたが、何もでてこないところをつつくものだから、獣医師会の利益確保のための政治同盟のようないかがわしい存在まで露になって、藪蛇のようなもの。

そうこうするうちに、小川榮太郎氏の「戦後最大級の報道犯罪」がでて、そっちはとりあえず訴訟をしておけ。これがまた不評で、長崎県のどこかで、役所に朝日新聞のような偏向した新聞を置くべからず。

初めに書いたが、記者クラブで坪井ゆづる記者に、安倍さんが「朝日は、加戸知事の記事を掲載しましたか」……安倍さんもいい加減、腹に据えかねたと見

える。坪井は「書いた、書いた」とわめくが、一面ではなく、またその記事の大ききさでいえば、3 cm×3 cmくらい。元文科次官のほぼ1ページ大が数ページとくらべて、まあついでに、か念のためか。記者クラブ内は、失笑の嵐だったという。

今度は、森友の公文書改竄を「発見」し、大スクープだと社民党に話をもっていく。社民党も、支持率が1%もなく、あってもなかってもどうでもいい党。話の中身は朝日も社民党も内容はわかっているが、なんとか安倍を倒したい、で一致して国会で問題にする。……この連中は、国益とか国難とか、天下国家を考えることよりも安倍内閣の存在を消したいだけのこと。(後述)

加計学園の獣医学部新設の話は、獣医師会もしぶしぶみとめざるを得なくなった。世界の獣医学の学問レベルとの較差を指摘されれば、商売人としてよりも学者としての名声に傷がつくと思ったか。北海道でのBSE(狂牛病)の発生数が正確にわからず、どこからでたか、どう広がったか、もわからない。ヨーロッパの獣医学者たちは、日本を信用していない。宮崎県の口蹄疫にしても似たようなもの。BSEがヨーロッパで発生したとき、EUの調査官は「日本も危険性あり」と判断したが、日本はなんやかんやと逃げた。その3か月後にBSEが発生した。このとき、EUは、「我々は礼儀正しい国々のあつまりだから、日本を嘲りはしない。しかし、我々が日本の国内政治上の駆け引きに付き合うことは絶対はない。我々が、日本を危険度ゼロにするとでも(農水省は)思ったのか」

このEU公使は、日本の業、政、官の閉鎖社会の安泰をまもることが農水省の仕事のひとつとみぬいていた、ことが日本を蔑む言葉の裏にふくまれている。日本は、学問よりも既得権益を優先し、利益が何よりも大事だ、と思われかねない。さすがは、エコノミック・アニマル。完全に読まれてバカにされている。

さらに、獣医師会は、四国には鳥インフルエンザは発生していない、とつっぱねていたが、加戸知事は、渡り鳥が来る限りいつ発生してもおかしくない。そして、現実に鳥インフルエンザが四国でも発生したのである。

ゆうたらなんやけど、加戸知事がご健在のうちに、今治に加計学園獣医学部ができたことは、本当によかった。ところが、中には、加計学園なんか、あかん大学ですよ、などとのたまう記者もいるのである。当然会社の意向が働いている。加計学園の岡山理科大は、国立岡山大学より、設備も学生も充実している、というのは、地元の人にはよくわかっている。他の県では加計学園のレベルが低いと思わせるような記者の意見である。名誉棄損で訴訟が起きてもおかしくない。

つまり、加計学園問題はすでに収束しているのである。

朝日新聞の執念か、森友学園について、「公文書改竄」疑惑がでてきて、野党も息をふきかえたかのごとくにみえるのだが、こいつらには、国会議員の資格が

ない。米朝対話などとうかされているなら、一般国民のなかでも並以下の存在だ。もし、この会談が決裂したら、ソウルや日本の大都市は火の海になるかもしれないのだ。だから「国難」なのである。

公文書改竄の真相は何か、といえば、近畿財務局の作成した文章があまりにも冗長で、必要最小限のことを書けばいいのに、無駄な文章が多いから添削しただけ、という説もある。無用の政治屋の名をだしたり、総理夫人の名をだしたり、あんまりだから、「改竄」と呼ばれるほどの削除をただけのことである。亡くなった職員の自殺の原因については、それこそいくつもの可能性があるのだが、死ぬことよりも、自分の文章の正当性を訴えればいいのであったかもしれない。亡くなった職員については、気の毒ではあるが、やはり、省のトップの責任は免れないかもしれないが、単純な構造なのかもしれない。上の人間の考えることである。

森友学園の土地が、なぜあれほどのやすさになったか、の理由ははっきりしている。話は民主党政権のときから発生している。あんな詐欺師みたいな連中のために、安倍夫人が口利きするまでのことはなかったのである。(口利きも事実かどうか。相手が勝手に利用するために言っている可能性が強く、阿比留記者や高山氏らが、精細にのべているが、実に怪しいもの。) あそこの土地は、伊丹空港の騒音問題の最先端だった。森友学園の土地については、近畿財務局が森友側に地下にゴミがあることを告げていなかったから、あとで揉めることになったという。森友の土地売却に辻元清美が1枚かんでいる。その隣の土地は給食センターになっているが、これは100%国庫からでているという。さらに、野田中央公園については、豊中市が、14億の評価をし、(国が9億という)、実際には2000万円で購入したという。だから、安倍さんが口を利く前に、初めから値引きして売却することが決定されていたのである。このとき、豊中市に14億をだしたのは国交省副大臣だった辻元清美で、その責任を追及されるのがいやさに、いまだに沈黙を保っている。アンパンマンみたいな顔をして(いや顔の悪口ではないですよ)やっていることはバイキンマンか。なんであんなん当選さすねん、と選挙区に住む友人がぼやいていた。

伊丹空港は戦前から存在し、住宅地があとから空港に近づいてきて、騒音公害と騒ぎまくっただけのことで、土地に余裕があるうちに将来の用地を確保しておかなかった往時の政治屋の所為でもある。で、伊丹の騒音で空港を閉鎖しろ、と騒いでいただけで、いざ伊丹空港が閉鎖されたら、困ったのが、反対運動でなんらかの利益を得ていた連中である。逆に伊丹空港を再開してくれと陳情し、現在は、いろんな工夫で空港を整備し、通常の業務を行っている。みな、勝手なものです。

それはともかく、安倍総理夫妻がでてくるところはまったくない。朝日のでっち上げに近い。1年以上かけて、結局安倍夫妻の関与が否定されただけのことである。

ああ、無駄な時間を費やしてしまったものだ。今、世界をみまわすと、平和ボケした日本の国会議員やメディアは、たとえば米朝会談が決裂したら、ドンパチが始まることを考えないのか？ さいわい、現在は、米軍の圧力と斬首作戦に北朝鮮の独裁者が耐えかねて、オリンピックを利用して、さらに中国共産党に逃げ込んだが、いつどうなるやらわかったものではない。些細な土地の購入などにかかずらわっていないで、日本の国益を考えてくれないか？ ミサイルが飛んで来たら、数十万人単位で犠牲者がでるかもしれないのである。まさか、国連憲章の冒頭部分の、「他国の公正と信義と・・・」などを信用しているわけではあるまい。

明治維新に際し、「富国強兵」を選んだのは、日本が欧米の植民地にされることを恐れたからである。もともと、高い教養と道徳の持ち主である日本人全体の協力が得られたから、わずか30数年でロシアに勝った。薄氷を踏むような勝ち方ではあるが、勝ったことは間違いない。このとき、この事実を見たのは、満洲のごく一部の人たちだけが、話は、世界中にとどろき渡った。そして大東亜戦争において、植民地だったアジアの人々が目の前で、それまで自分たちを動物のように扱ってきた白人たちが、大わらわで逃げ惑う姿を目撃した。日本陸軍の強さを目の当たりにしたのである。そして、東南アジア諸国の独立に至り、日本は大東亜共栄圏を確立した。

敗戦後は、何の気概もなく、GHQのあてがった憲法を破り捨てて、日本の精神的な歴史を踏まえた憲法を作る努力もせず、口先だけで平和を叫べば、どの国も攻めてこないらしい、と敏感に察知し、アメリカ追随の姿勢で過ごしてきた。メディアは、それまで禁じられていたマルクス主義にかぶれてしまい、共産主義に洗脳されて、恬として恥じない。

そこでは、何が大切なのか、理解できないメディアや御用学者のしたい放題。いま、「国難」にあっつていながら、何一つ努力しないで、平和を貪る腰抜けばかりである。寺山修司の、「マッチ擦る、つかの間海に霧深し、身捨つるほどの祖国はありや」で、身を捨てたくなるような国民が少なくなって、屁のような連中ばかりになってしまった。

繰り返す、国会議員というのは、私利私欲を捨て、日本という国家、日本人という国民をいかにするか、を考えるものである。理念である。それが国民の預託にこたえることなく、目先の利益のみ追及し、本当の国土の邪魔ばかりし



ている。手伝ってくれとは言わないが、邪魔をしないでいてもらいたい。北朝鮮、少子化、憲法改正、消費税、社会保障、労働時間など問題山積ではないか。

モリカケを端緒に、些末な公文書の改竄（改竄ではなく、単なる添削かもしれない）という重箱の隅をつつくようなことばかりせず、ちゃんと国家・国民のためになる仕事をしろ！

藤原正彦氏が、かねてから主張してきたことは、惻隱の情を日本人は持っていた。卑怯を憎む心もそうである。

今回、たまたま例え話として日露戦争の際の旅順港口閉鎖作戦のことを書いた。この作戦で、バッテリーに杉野兵曹長が見当たらないのに気付いた廣瀬少佐が沈没させる船内を隈なくさがしたが、みつからず、小学唱歌「広瀬中佐」で有名な「杉野はいずこ、杉野はいずや」で、軍神廣瀬と名は残っているが、バッテリーに乗り移った途端に頭部が吹っ飛んでしまった。沈没させる船が敵の反撃で予定の場所に辿り着けなかった。このとき杉野は、廣瀬少佐の無念を思い（忖度し）、できる限り船を敵に近づけようとしたらしい。

かつて、わが国では忖度と惻隱は表裏一体となって社会を動かしていた。下の者が上の者の気持ちを忖度して行動し、上は下に情をかける。

ケネディ大統領は、最も尊敬する政治家として上杉鷹山を挙げた。鷹山は自ら粗衣粗食に徹し、家老たちの碌を大幅カットし、貧民のために粉骨砕身した惻隱の人だった。どこの国の人にも容易に理解され、尊敬される、日本の美風と言ってよい。

モリカケでは、文科省と財務省の忖度により起きた事件だが、上司の意向を下が忖度するというのは、日本のあらゆる組織では当たり前で必要不可欠なことでもある。ただ、公僕については、政治家の意向に対し慎重に接する必要がある。

部下は上司の心を「忖度」し、それで全体がうまく進展するなら、多少の無理はする。その見返りとして上司は部下を守る、「惻隱」の情の持ち主でなければならない。だから、今回の件では、安倍総理に対する忖度でも配慮でもいいが、なにかあっても、それは当然のことである、と藤原氏は主張している。

そんな些細な文書のことより、迫りくる国難に対して、如何にするべきかを議論しろ。それが、国会議員の仕事だ、と言う。メディアの幼児性もあからさまになった。野党とメディアの程度の低さが、目に余る。